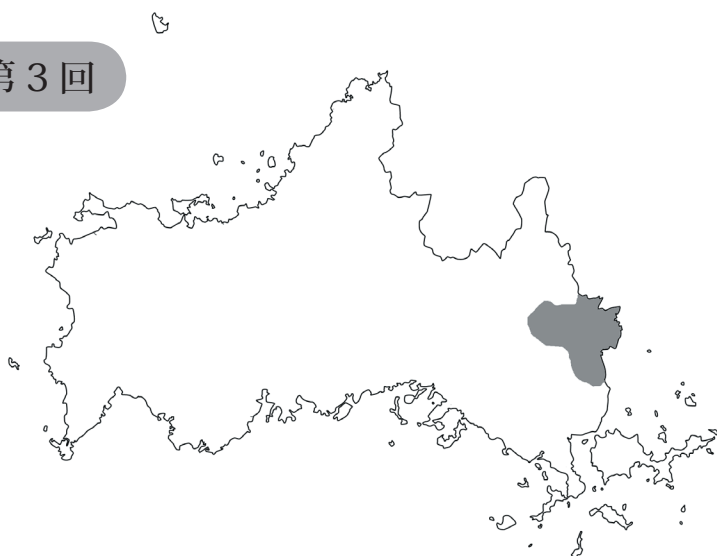


## 郡市医師会めぐり 第 3 回

## 岩国市医師会



岩国市医師会は昭和 15 年 4 月の岩国市制の施行に伴い、玖珂郡医師会から分離独立して同年 4 月 26 日に創立されました。創立当初の会員数は 25 名であったと記されています。太平洋戦争を経て昭和 23 年に医師会は、発展的に解散して第 2 次岩国市医師会として発足しました。医師会館もなく、会長宅が事務所だったとのこと。昭和 34 年 6 月社団法人の認可を受け（会員数 68 名）、平成 12 年には会員数 176 名（1 号会員は 117 名）と最多になりましたが、現在は 155 名（1 号会員は 88 名）の会員が活動しております。現在、公益法人制度改革により一般社団法人への移行を準備中です。

岩国市は、山口県の東端に位置し広島県や島根県と隣接、また柱島等の離島を含め非常に広い医療圏を有しております。岩国市の人口は約 14.5 万人ですが、玖珂郡医師会や由宇地区が所属する柳井医師会が同じ行政区の中にあります。

当医師会の特徴は、勉強熱心さと病診連携、診診連携のよさにあると思います。その中心的役割をなすのが、岩国市医療センター医師会病院です。会員の念願であった医師会病院は、平成 5 年 4 月に開設されました。平成 10 年には地域医療支援病院として承認され、平成 12 年には全国に先駆けて病診連携室を設置し、日本医療評価機構の認定を受けました。平成 16 年 4 月には、「障害を持つ人々が住み慣れたところで生き生きと暮らすために地域で支え合う」を理念に、地域住民待

望の、回復期リハビリ病棟を主体とした総合リハビリテーションセンター（医師会病院東館）が設立されました。医師会館も昭和 36 年建築の旧会館を売却し、東館の中に移転、あわせて講堂や研修室も造られ、病院との共同使用が可能となり、医師会活動の効率化が進みました。平成 19 年には、リハビリテーションセンターの一室で療育センターを立ち上げ、障害をもつ子どもと保護者に対応することとなりました。しかし、十分な対応とは言えず、平成 24 年 7 月に東館に隣接して、岩国市療育センターが開所し、医師会が岩国市及び和木町より委託を受け、「障害児等総合療育相談事業」を実施することになり、スタートしたところです。療育センターには診察や検査、療育訓練を行いながら、ワンルームマンション形式の在宅訓練室もあり、障害児の自立支援を行っていくこととなっています。これにより、医師会病院は一般診療に加えて、人工透析、ペインクリニック、また平成 23 年 10 月より開始した緩和医療、リハ部門、療育部門、健診部門、訪問介護部門、臨床検査センター等をそなえた病床数 201 の完全紹介型病院として地域になくはない病院となっています。

また、どこの地域でも問題となっている救急医療ですが、岩国市医師会では、昭和 40 年 12 月、休日医療体制確保のために、会員が在宅当番制で自院にて休日の急患に対する診療を始めております。続いて、昭和 41 年 10 月より離島の柱島日曜出張診療を開始（昭和 49 年 3 月廃止し岩国医

療センターに引き継ぎ)、昭和 49 年には県下の他都市に先駆けて休日診療所を開設し、9 時から 18 時まで診療を行っておりました。昭和 54 年からは 21 時まで診療時間を延長しましたが、24 時間 365 日対応でき、状況に応じて入院・手術も可能な救急医療施設が必要不可欠との考えより、医師会病院設立と同時に救急センターを併設し、主として一次及び二次救急医療を開始しました。運営は一部、岩国市や和木町の補助を受け、医師会病院医師や山口大学の協力のもと、玖珂郡医師会や由宇地区の柳井医師会の先生方のご協力、また岩国歯科医師会や薬剤師会とも連携し、会員が協力出勤しあう方式で、平日夜間と休日 24 時間体制で住民の救急医療に当たっています。しかしながら、昨今の厳しい医療状況から、山口大学からの医師派遣困難、医師会病院常勤医の疲弊や開業医の高齢化にともない地域の救急医療は大変難しくなっております。医師会では平成 20 年より、地域住民に救急医療への理解をいただくために、岩国医療センター、医師会病院、開業医の先生方の協力を得て、各自治会、老人会、保育園や幼稚園の保護者などを対象に救急医療講習会を年に 6～7 回行っております。その効果か最近では軽症患者の時間外受診が低下してきています。また、広域災害救急医療に対しては医師会病院が県の災害拠点病院の指定を受けていますが、平成 21 年 DMAT (災害派遣医療チーム) が作られました。こうした永年の取り組みが評価され、平成 22 年 9 月 9 日「救急の日」に、岩国市医師会は救急医療者功労厚生労働大臣表彰を受けました。今後も年々深刻さを増す救急医療問題に地道に取り組んでいく所存です。

救急センターは別のメリットもありました。個人の診療所の時間外受診は大幅に減少、会員は数多い勉強会に出席できるようになり、またセンター執務で会員同士や医師会病院医師との連携が深まりました。連携には当然、各医会、分科会や同好会の活動も欠かせません。当医師会には多くの勉学を目的とした同好会(臨床糖尿病懇話会、



循環器疾患懇話会、肝疾患懇話会、腎疾患懇話会、呼吸器疾患検討会、消化器同好会、やまびこ会、画像を学ぶ会、東洋医学研究会等々……)があり、医師会病院や国立岩国医療センターの勉強会もあるので、勉強熱心な先生方は毎夜、外出となります。また二四会や萬嶽会といった小さなノミネーションの会もさかんです。趣味の会は残念ながら縮小傾向ですが、医師会ゴルフコンペ(岩医ゴルフ)は発足 46 年になり 500 回を超えました。岩医会員も少々高齢化してきたとの声もありますが、大いなる発展を期待したいところです。こうした会合では当医師会の伝統である「議論」がさかんに行われています。

当医師会はまた、女性医師が元気なもの自慢です(!?)。IMF はこの 10 月に行われた東京会議で、日本に、将来の労働人口の減少に対して女性の活用をもっと考えるよう提言を行っています。女性医師部会のありかたも模索中です。

今後は、ますます難しくなる時代のなか、医療と地域、行政のパイプ役として、また会員のためになるパワーある医師会をめざしていきたいと考えております。この 12 月には、岩国錦帯橋空港が開港します。東京出張の帰途には是非お寄りくださり、美しい錦帯橋を愛でいただければ嬉しいかぎりです。

【岩国市医師会 広報担当理事 小林優子】